

- 本調査は一九八八年度から実施している県道の拡幅工事に伴う事前調査の継続調査である。調査地は、雷丘から桜井へ向かう県道



(古代の山田道を踏襲している
と推定されている) 沿い北側
の水田である。調査面積は
八二〇m²。

の水田である。調査面積は
八二〇m²。

検出した遺構は弥生時代古墳時代、七・八世紀代および中世の各時期に属する。このうち七・八世紀代の主な遺構には、東西道路SF

二六〇七、東西溝SD二五四〇、四条の南北溝SD二五四一・二六二三・二六二四・二六二五、石敷SX二六三三などがある。

木簡は、東西溝SD二五四〇と南北溝SD二六二三・二六二五および奈良時代の包含層から各一点ずつ、合計四点が出土した。東西溝SD二五四〇は、東西道路SF二六〇七の北側溝にあたると推定される幅約二・五m、深さ〇・三〇・六mの素掘り溝で、七世紀末～八世紀前半頃の土器を含んでいる。南北溝SD二六二三・SD二六二五は、ともに断面がU字状を呈する浅い素掘りの溝で、北に流れる。堆積土は粗砂で、多量の土器類を含む。時期は七世紀末～八世紀前半に属する。

8 木簡の積文・内容

南北溝SD二六二三

(1) ☐ ☐ マ ☐ ☐ ☐ ☐

龜甘マ
伊艾□

333

(149) $\times (23) \times 4$ 081

南北溝SD二六二五

(2) 僧

160

9
関係文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』
一〇（一九九一年）

同『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』二一（一九九一年）（橋本義則）